

[特別活動]

生徒の自浄作用で学校生活を充実させていくための方策

— 東中クリーン会の活動を通して —

小出 信也*

1 はじめに

生徒が学校生活を円滑に送ることができるために、生徒会が重要な役割を担っていることは言うまでもない。筆者は、平成14年から現任校に勤務し、生徒会活動に携わってきた。この間、生徒が自分たちの手で諸活動を計画的に進めることによって充実感を味わう姿を見て、筆者自身、ますます生徒会活動に魅力を感じるようになってきた。

しかし、「生徒の自浄作用」を活用しながら活発な活動が展開されると言っても、やはり、生徒自身が考えて活動すること自体には限度がある。ここに言う「生徒の自浄作用」とは、「何が問題になっていて、その問題を解決するために具体的にどのような活動をしていくのかを生徒が中心となって考え、行動するということ」と考えるが、ここ数年間の生徒会活動を見ると、年間計画に基づいた大きな流れが既にできあがっているために諸活動のマンネリ化が見られるのである。過去の生徒会総務が築いてきた伝統にとらわれ、新しいことに挑戦しようとしないうる風潮がここ1、2年特に目立つ。

そこで、生徒会総務の生徒を中心に、自分たちの活動の中から問題点を見つけ、自ら考え、行動することによって、新しいことに挑戦していくことにより、これまでの「自浄作用」を更に発展させた生徒会活動を展開することが課題であると考えた。本稿では、この課題に迫るために行った平成17年度の実践を報告し、検討する。

2 実践上の課題

筆者が現任校に赴任する前の学校の様子は生徒が落ち着いて諸活動に打ち込むことができるような雰囲気ではなかったようだ。その状況を打破するために、学校生活を生徒自身の手で充実させたり、改善させたりするために、自



図1 生徒会重点目標「LOVE & PEACE宣言」

発的、自治的に日常活動に取り組むことができるよう、生徒会が中心となり活動してきた。

平成11年頃から学校が落ちつき、その良い状況を次年度にもつなげていきたいと考え、「今まで以上に仲間との交流ができる学校を目指したい。」「集団生活のルールを守り、けじめのある学校を目指したい。」「自主性のある学校を目指したい。」という内容の「提言」を生徒会総務がまとめた。

その3つの提言に名称をつけようと全校生徒にアンケートをとり、「愛 (LOVE)」「平和 (PEACE)」のとおり、校内に思いやりの気持ちがあふれ、自主的に行動し、学校生活を平穏に過ごせるようにという意味をもつ、この「LOVE & PEACE宣言」が採用された。(図1)

学校が生徒の自浄作用を生かした活動に取り組むことになった原点はここにある。この生徒会重点目標は、「永久保存版」「次年度に引き継ぐ」という当時の生徒会総務の方針から、毎年、前期生徒総会で全校生徒に「LOVE & PEACE宣言」について説明し、全校生徒に周知徹底を図り、学校生活を送るよう確認してきた。そして、この重点目標が達成できたかどうかについて学年末にアンケートをとり、それを集計し、全校生徒の達成度を数値化してきた。ここで、生徒会重点目標と過去3年間のアンケートの結果を紹介する。

* 小千谷市立東小千谷中学校

【資料1】 『LOVE & PEACE宣言』 アンケート集計結果

全校生徒数 平成14年度 272名 平成15年度 257名 平成16年度 244名

★「心ふれあう学校」を目指します。

●明るいあいさつをします。	平成14年度	平成15年度	平成16年度
1 自分からあいさつすることを心がけましたか。	69%	75%	81%
2 元気よくあいさつしましたか。	62%	74%	72%
●困ったときは助け合います。	平成14年度	平成15年度	平成16年度
3 友達が困ったときは助け合いましたか。	86%	78%	81%
4 自分が困っているときに助けてもらいましたか。	75%	80%	83%
●友情の輪を広げます	平成14年度	平成15年度	平成16年度
5 周りの人と協力して活動しましたか。	86%	80%	83%
6 周りの人に平等に接することができましたか。	67%	63%	67%

★「けじめのある学校」を目指します。

●時間を守ります。	平成14年度	平成15年度	平成16年度
7 チャイム着席がきちんとできましたか。	69%	62%	75%
8 登校時間を守ることができましたか。	82%	86%	91%
●場に適した行動を取ります。	平成14年度	平成15年度	平成16年度
9 集会やトレーニングの時、場に適した服装でしたか。	90%	78%	81%
10 集会などでは素早く整列することができましたか。	68%	68%	68%
●公共物を大切にします。	平成14年度	平成15年度	平成16年度
11 公共物を大切にしましたか。	87%	81%	89%
12 公共物を使った後、きちんと片づけましたか。	88%	91%	90%

★「自主性のある学校」を目指します。

●積極的にチャレンジします。	平成14年度	平成15年度	平成16年度
13 自分の課題を解決しようと積極的に取り組みましたか。	65%	53%	59%
14 自分自身を成長させることができましたか。	70%	63%	64%
●自分の行動に責任を持ちます。	平成14年度	平成15年度	平成16年度
15 自らの行動に責任を持って行動できましたか。	79%	74%	72%
16 人の力を借りず、自分の力で課題を解決できましたか。	45%	50%	40%
●進んできれいな学校にします。	平成14年度	平成15年度	平成16年度
17 清掃の時に自分から進んで仕事を見つけましたか。	74%	75%	61%
18 隅々まできれいに、丁寧に掃除ができましたか。	71%	78%	77%

(各年度の割合は「YES」と答えた生徒の割合)

【資料1】の各項目について、特に数値が低いのは以下の項目である。

- ・「6 周りの人に平等に接することができましたか。」
- ・「13 自分の課題を解決しようと積極的に取り組みましたか。」
- ・「14 自分自身を成長させることができましたか。」
- ・「16 人の力を借りず、自分の力で課題を解決できましたか。」
- ・「17 清掃の時に自分から進んで仕事を見つけましたか。」

この5つの項目について、当校の生徒の様子を見ると、偏った人間関係の中で生活することが多く、誰とでも平等に接することが苦手な生徒が多い。また、集団で力を合わせて、作業や行事に取り組むことはできるし、充実感や達成感を味わうことができるが、逆に自らが主体的に行動し、自らの力で課題を解決していかなければならない学習や諸活動については力を発揮することができなかつたり、力を発揮する方法を知らなかつたりといった実態が明らかになった。

そこで、学校生活における生徒の自浄作用の働く活動について、マンネリ化を防ぎ、今まで以上に学校生活、特に生徒の力で活動に取り組む生徒会活動において、新しい活動に取り組むことが必要であると考えた。

これらのことを実践上の課題としてまとめると次のようになる。

生徒会活動において、今まで培われてきた生徒の自浄作用を生かした活動について、マンネリ化を防ぐために自らが考え行動し、達成感をもつことができるような新しい活動に取り組むこと。

3 実践課題を解決するまでの手だて

(1) 今までの活動から

生徒会は例年大きく3つの活動に取り組んできた。

- ①行事（新入生歓迎会・運動会・文化祭）等の企画、運営
- ②日常の活動（生徒集会の実施・意見箱への意見の集約・生徒会新聞の作成・生徒会放送の実施）
- ③学校内で起こった問題（掲示物へのいたずら、友人の靴を隠すなど）が起こった場合に臨時生徒集会を開く。
特に靴を隠した時は生徒会長が再発防止に努める話しをした後、全校が一斉に校舎、敷地内を分担して探すよう促し、行動した。

①行事については、例えば、運動会のオープニングとエンディングのセレモニーで前年と同じ流れにしないなど、伝統として根付いていることに一部改良を加えながらの活動である。しかし、期間限定の活動であり、継続性に欠けるところがある。

また③校内で起こった問題への対処については、校内で起こってはならない問題だけに活動を工夫をするというよりは、むしろ生徒の心に響くような訴えをしたり、活動をしたりするところにテーマがある。生徒会が的確な指示を出しながら全校生徒がその指示に従って行動する。自らが考えて行動するという工夫の発展性においては限界がある。

そこで、②「日常活動」の中で新しい活動に取り組むことが大切になる。生徒会総務と相談し、どんな活動ができるかを検討することとした。

相談する中で多くの生徒が参加する委員会活動に着目した。当校は10の委員会にそれぞれ生徒が委員として所属することになっている。3年生は委員長や副委員長の他に委員も選出することからほとんどの生徒が委員会に所属することになるが、1・2年生は委員会に所属しない生徒も出てくる。

これらの生徒の力を何かの形で発揮することはできないかと考え、「東中クリーン会」を発足することを決めた。そして生徒総会で全校生徒に活動の趣旨を説明し、承認を得てから実際に活動に取り組むという段取りで進めることとした。



写真1 生徒総会で全校に趣旨説明する生徒会長

(2) 生徒会が全校生徒に伝えた「東中クリーン会」の活動方針について

そもそも東中クリーン会は委員会に所属していない生徒の参加を募集し、その中で活動をするところからスタートしなければならない。委員会に所属している生徒は、生徒会活動の中で組織への所属感を持つことができる。しかし、所属していない生徒は生徒会活動への意識が低いまま1年間が過ぎてしまうという実態がある。したがって、委員会に所属していない生徒をターゲットとし、「参加してみよう」ということができるような方針を提示することが大切になる。

そこで、次のような活動方針を生徒総会の時に全校生徒に紹介することにした。

- ・活動時間は月一度の委員会活動の時間とする。
- ・活動内容は校舎内、校地内でのクリーン活動や奉仕作業とする。
- ・他の委員会と同じ扱いはせず、あくまでも自主的な参加を呼び掛ける。
- ・生徒会放送で呼び掛けをし、口コミで活動の幅が広がったり、回数を重ねるごとに活動の輪が広がったりしていくことに期待する。
- ・必ず参加しなければならないということではないので毎回の参加でなくてもよい。
- ・生徒会組織図の位置付けは委員会のとなりに括弧書きで（東中クリーン会）とする。

「生徒の自浄作用」という面で考えた時に、やはり「強制」ではなく、あくまでも「主体性を重んじる」ということがポイントになる。生徒の「やってみたい」という意志があって初めて活動がスムーズに行われるのである。「やらされている」という雰囲気が出てしまうことを心配した点、美化委員会の傘下にクリーン会が存在するという考えになってしまうと主体的な参加は期待できないという点から、委員会ではないという区別をはっきりとさせることが組織図の上でも大切になると考えた。そこで「図2 生徒会組織図」のような（東中クリーン会）と記述をすることとした。

また、活動時間については、特別な時間設定をしてしまうと、放課後活動や部活動などへの参加に影響が出てしまい、クリーン会への自主的な参加は期待できないと判断した。そこで、月一度の委員会活動の時間に行うことにし、委員会に所属していない生徒が参加しやすい時間の確保をすることにした。

以上のような活動の趣旨を全校生徒に説明し、承認を得た後、実際の活動への準備を開始した。

(3) 活動を始めるために

「東中クリーン会は委員会ではない」という点を全面的に提示したとはいえ、やはり誰かが中心となり、活動を展開しなければならない。そこで、クリーン会の活動を行う上で次のような点を生徒会総務で決めた。

- ・委員会ではないので、委員長などの代表者は設定しない。ただし、生徒会総務から代表者2名を決め、担当職員とのパイプ役となる。
- ・「東中クリーン会」の担当職員も2名決める。
- ・時間の都合でやりたくてもなかなかできないようなことがしたい。活動の後に「これをやらしてもらってありがたい」と全校生徒も職員も思えるような活動をしたい。

月一度の委員会活動の時間に活動することから、まずは、生徒会担当職員と東中クリーン会の担当職員間で事前にどんな活動ができるかを確認することにした。また、担当職員間だけでは活動内容が偏ったり、固定化してしまったりすることから、全職員にどんな活動ができるか、また、こんな活動をして欲しいといった要望を聞くことにした。学校の現場の多忙化から、やりたくてもなかなかできないことを生徒の手で行い、「やらしてもらって助かった」という声を活動後に全校生徒に伝えることも生徒の意欲の喚起という点では大切なことであると考えたからだ。

その後、生徒会の担当生徒と職員がどのような活動ができるかを話し合い、活動内容を決定してから、放送や集会などを利用して活動への参加を呼び掛けた。また、「クリーン会に参加してみよう」という雰囲気を高められたらという生徒会としての願いから参加を呼び掛けるポスターを校舎内に掲示した。

(4) 実際の活動と活動についての考察

平成17年度に東中クリーン会として活動した内容は次の通りである。なお、参加人数については委員会に所属していない生徒の合計51名のうちの参加人数と参加の割合である。

月	活 動 内 容	参加人数	参加率
5月	玄関清掃と下駄箱の清掃	31名	60.7%
6月	震災後に教室前の廊下に放置されていたテレビの移動と整理	36名	70.5%
7月	体育館ギャラリーの清掃と体育用具室の整理	39名	76.4%
9月	進路学習室の清掃と進路資料の整理	37名	72.5%
10月	玄関清掃と下駄箱の清掃	30名	58.8%
11月	校地内の落ち葉拾い	92名	180.3%
12月	校舎内の窓ふき清掃	35名	68.6%
1月	除雪	90名	176.4%
2月	除雪	85名	166.6%

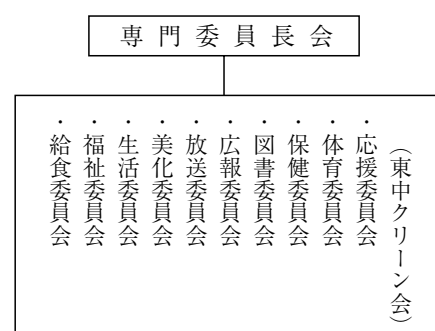


図2 新しい委員会組織図

実際に3年生は全員が委員会に所属しているため、クリーン会への参加はできず、1・2年生が主体となった活動が多かった。回を重ねるごとに参加人数が少しずつ増えていき、順調に活動を行うことができた。

また、11月、1月、2月の活動については参加率が100%を超えている。これは委員会活動が終了した生徒が、東中クリーン会の活動の様子を見て、手伝いに来てくれた生徒も参加人数としてカウントしたからである。

年度末に「東中クリーン会」に参加した生徒の感想をここで紹介する。



写真2 1月の除雪作業の様子

- ・自分が作業をした場所が、目に見えてきれいになっていくのを見て、うれしくなった。また活動に参加しようと思った。(A男)
- ・あまり話したことのない人たちもたくさんいたけど、仕事をしているうちに自然と話していた。協力するためには友達とか関係がない。参加する人に気持ちがあれば自然と伝わるものなんだということが分かった。(B子)
- ・落ち葉拾いはたくさんあったのでたいへんだったけど、途中からどんどん人が集まってきて、何だか楽しくなった。たくさんの方がいれば、自然と気持ちも乗ってることが分かった。終わった後の大量の落ち葉で何かできないかと思った。(C男)

活動の様子を振り返ってみると、活動に対していやいや取り組むという雰囲気ではなく、楽しみながらやろうという雰囲気が活動の中に流れていた。また、目に見えてきれいになったりという成果が上がることにに関しては、夢中になって活動する姿が目立った。

また、委員会活動が終了し、クリーン会の活動を手伝おうとする生徒もいた。そうした生徒の姿から自然と協力の輪が広がっていく様子を実感し、生徒会総務としては活動の企画が成功したことを直接感じることができ、充実感を味わったようだ。

平成17年度の最後の活動として、今年度活動に参加した生徒自身の感想を参加募集のポスターに書き込み、来年度も東中クリーン会の活動を絶やすことなく続けていきたいという生徒会総務の気持ちを全校生徒に伝えることもできた。

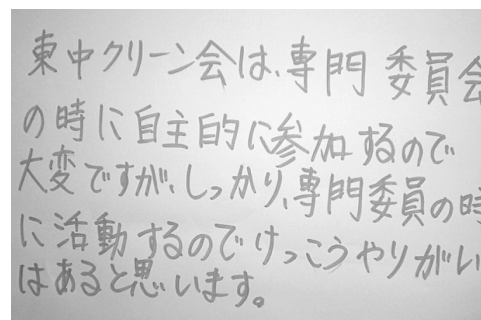


写真3 募集ポスターに生徒会総務が書いた感想

4 「東中クリーン会」と「LOVE & PEACE宣言アンケート結果」との関連性について

活動のマナー化を防ぐ新しい活動について、今まで紹介してきた。しかし、忘れてはならないことは、具体的な活動自体よりも、生徒の自浄作用をいかに働かせることができたかということである。

東中クリーン会に取り組んだことがどれだけ生徒の心に響いたかを把握するために、平成17年度末に取ったアンケート結果の中から、【資料1】の中で、特に数値の低かった5つの項目について、以下に述べる。

【資料2】平成17年度LOVE & PEACE宣言アンケート結果抜粋	全校の達成度	1年	2年	3年
6 周りの人に平等に接することができましたか。	62% (前年比5%ダウン)	45%	61%	76%
13 自分の課題を解決しようと積極的に取り組みましたか。	64% (前年比5%アップ)	54%	71%	68%
14 自分自身を成長させることができましたか。	76% (前年比13%アップ)	71%	71%	83%
16 人の力を借りず、自分の力で課題を解決できましたか。	52% (前年比12%アップ)	50%	43%	60%
17 清掃の時に、自分から進んで仕事を見つけましたか。	74% (前年比13%アップ)	63%	77%	81%

(割合は「YES」と答えた生徒の割合)

【資料3】各項目で「YES」と答えた理由

- 6 周りの人に平等に接することができましたか。
 - ・クリーン会の活動を通して、参加した人たちと話げできたから。差別的な見方をしていると協力できないことが分かったから。

- 13 自分の課題を解決しようと積極的に取り組みましたか。
- ・これからやる作業を終わらせられるように積極的に頑張ったから。
- 14 自分自身を成長させることができましたか。
- ・クリーン会に参加しているいろいろな人に挨拶ができるようになった。ボランティア活動にも参加してみようと思ったから。
- 16 人の力を借りず、自分の力で課題を解決できましたか。
- ・クリーン会で能率良く作業を進めることが大切なので、協力することは大切だけどできる限り、自分の考えで行動することを頑張ったから。
- 17 清掃の時に、自分から進んで仕事を見つけましたか。
- ・限られた時間の中きれいにすることの大切さをクリーン会で学んだ。毎日の清掃でも自分から積極的に行動することができたから。

「東中クリーン会」を行ったことが、すべて上記のアンケート結果につながっているとは言い難い。しかし、【資料3】の理由の中にクリーン会についての記述が多く出てきていることから、クリーン会の活動そのものが生徒自身の中に根付き、意識の高揚につながったために「YES」と答えた生徒の割合が増加したと考えられる。

【資料2】のアンケート集計の中で、特筆すべき事項が、各学年の割合である。3年生は委員会に全員が所属している関係で東中クリーン会への参加ができない点を加味したとしても、「13 自分の課題を解決しようと積極的に取り組みましたか。」については、3年生よりも2年生の「YES」と答えた割合が高かったということである。実際のところ、2年生の参加者が一番多いというのは来年度以降の活動にもプラスとなって働くはずである。また、学年が進むにつれて、達成度が高くなっていくのは良いことではあるが、これからの生徒会活動を担う2年生がいかに生徒会の活動を理解し、行動してくれているかが重要なポイントとなる。

東中クリーン会の活動を経験した2年生は、現在3年生に進級している。平成16年10月23日に発生した中越大震災後、各種団体によるボランティア活動が行われた。当校も仮設住宅の住民に対し、除雪や花植え等のボランティア活動を行い、それは現在でも行われている。また、県外の中学校が地元で収穫したお茶を各仮設住宅に配るボランティアにこの夏訪れた。そうした活動に最も多く参加するのは現3年生である。東中クリーン会で学んだ人と人とのつながりや、やり終えた後の充実感を忘れることができない生徒が自ら活動の幅を広げている。

今後も東中クリーン会で活動した経験が、日常生活の中で「自浄作用」となって様々な場面に生かされることを期待したい。

5 まとめと今後の課題

活動のマナー化を防ぎ、新しい活動に取り組むことは大変なことであり、労力もかかる。当校の生徒がここ数年間落ち着いた中で諸活動に打ち込むことができているのは、生徒会の役割が大きいからである。

また、LOVE&PEACE宣言の各項目のアンケート結果からも分かるように、生徒会活動だけが関わっているものばかりではない。学校生活全体に関わる点も多く、特に生徒指導との関連性が大きい。生徒会活動と生徒指導が同一歩調で諸活動に打ち込んでいる結果が、現在の当校の様子につながってきていると考える。

しかし、当校における生徒会活動において、様々な成果があった反面、幾つかの課題も浮き彫りになってきた。それは次の点である。

- 課題1 東中クリーン会の活動に参加したいと全校生徒が思えるよう、新しい活動内容を提示していくこと。
- 課題2 東中クリーン会の活動を発展させ、ボランティアや各種福祉活動に自主的に参加することができるようになること。

これらの課題を解決するために、全校生徒や生徒会総務、そして学校職員が一体となり、協力していくことが新たな自浄作用となって働くことになるだろう。そして、それが生徒の「心」を育てていくことにもなると考える。心を成長させるための努力をこれからは考えていく必要があると実践を通して一番感じたことであった。

〈参考文献〉

- 東小千谷中学校生徒会誌 『東雲』 第50号
 文部科学省 『中学校学習指導要領 特別活動編』